

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第7大会（第13戦／第14戦） 参戦レポート

11月5日（土）～6日（日）、モビリティリゾートもてぎ（栃木県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第7大会（第13戦、第14戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5小出峻（1999年10月26日生まれ。23歳）、#6西村和真（1999年7月21日。23歳）、#7三井優介（2002年4月22日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

小出、優勝でシリーズチャンピオンを決める

■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



薄曇りで冷え込んだ11月5日土曜日、ドライコンディション下で午前8時25分に公式予選セッションが始まりました。今大会はエントリーが39台となり、公式予選はA、B2組に組分けされてそれぞれ20分間ずつのアタックが行われる形式が取られました。HFDPの#5 小出、#6 西村、#7 三井はA組に出走しました。

気温、路面温度とも低かったため、各車慎重にタイヤをウォームアップすると、20分間のセッションが残り10分となったところでタイムアタックが本格化、まず#7 三井が1分58秒676で首位に立つと、すぐさま#5 小出が1分58秒526を記録して逆転しました。この直後、S字コーナーで停止した車両を回収するためセッションは赤旗で中断されました。

回収作業の後、セッションは残り6分59秒で再開されました。再開後、#7 三井は#5 小出を上回る1分58秒184を記録、順位を逆転しましたが#5 小出は1分57秒937で再逆転し、このままセッションを終えました。#7 三井は2番手、#6 西村はセッション終了前にタイムを縮め1分58秒581で5番手につけました。セカンドベストタイムでも#5 小出がトップ、#7 三井が2番手に続きましたが#7 西村はクリアラップがとれず11番手に終わりました。



その後で行われた予選B組ではコースコンディションが好転したためラップタイムが全般的に向上しました。決勝レースのスターティンググリッドは、ベストタイムが良かった組が奇数グリッドに並ぶ規則となっているため、第13戦のスターティンググリッドは#5 小出が2番手、#7 三井が4番手、#6 西村が10番手、第14戦のスターティンググリッドは#5 小出が2番手、#7 三井が4番手、#6 西

村が22番手と決まりました。

【第13戦スターティンググリッド】

2番手 #5小出 峻 1分57秒937

4番手 #7三井 優介 1分58秒161

10番手 #6西村 和真 1分58秒581

【第14戦スターティンググリッド】

2番手 #5小出 峻 1分58秒081

4番手 #7三井 優介 1分58秒184

22番手 #6西村 和真 1分59秒233

■第13戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



午後1時20分、気温が上昇する中、第13戦決勝のフォーメーションラップがスタートし、13週の決勝レースが始まりました。スタート後、上位はスターティンググリッド順のまま第1コーナーへ飛び込んでいきました。2番手スタートの#5 小出はトップを走る#36 小林選手のスキを探って進路を変えましたが前には出られず、#35 荒川選手、#7 三井の上位4台が1グループとなってオープニングラップを終えました。

トップを走る#36 小林選手はファステストラップを記録しつつ、徐々に#5 小出を引き離しにかかり、両者の間隔は周回毎に開いていきました。一方4番手の#7 三井は3番手の#37 荒川選手に攻め寄りましたが順位を入れ替えるには至りません。4周目の終わりに90度コーナーでアクシデントが発生、セーフティーカーが導入されて各車の間隔は再び縮まりレースは振り出しに戻りました。

6周終了時、7周目からのリスタートでは#36 小林選手がうまくリスタートし、再び#5 小出を突き放しにかかりました。しかし8周目のS字でコースに停止した車両を回収するため2度目のセーフティーカーが入り再び各車の間隔は縮まりました。



9周終了時、10周目にレースはリスタートしましたが、ここでも#36 小林選手はトップを守り、2番手の#5 小出は3番手の#35 荒川選手の接近を許して2番手のポジションを守るレースとなりました。4番手の#7 三井は、#35 荒川選手に引き離され、後方から5番手の#97 岩澤選手に攻め寄られる展開となりました。しかし90度コーナーで#97 岩澤選手がオーバーラン、#7 三井は4番手を確保することとなりました。#5 小出は#35 荒川選手からの攻勢を守り切り2位でフィニッシュ。#7 三井も4位に続いたため、チャンピオン決定は最終戦の第14戦へ持ち越されることになりました。#6 西村は10位でレースを終えました。

【FIA-F4選手権シリーズ13戦・レース結果】

#5小出 峻 決勝2位 (28分13秒919 ベストタイム 1分58秒278)

#7三井 優介 決勝4位 (28分15秒853 ベストタイム 1分58秒713)
#6西村 和真 決勝10位 (28分23秒286 ベストタイム 1分59秒425)

■第14戦決勝レース (13周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



爽やかな秋晴れとなった日曜日、午前8時20分にシリーズ最終戦となる第14戦決勝レースが始まりました。スタート合図とともにポールポジションから加速した#36 小林選手に#5 小出、#35 荒川選手が続きましたが、4番手からスタートした#7 三井は加速が鈍く、第1コーナーの進入で#77 宮下選手、#16 大滝選手の先行を許してしまいました。

ところがこの後方グリッドでスタート時に接触事故が発生しており、オープニングラップ途中でセーフティーカーが介入し、レースは隊列走行となりました。今回はホームストレート上に車両が停止してしまいその回収作業が行われたため、隊列走行はピットロードを通過して続き、5周目からリスタートが切られました。

ここで2番手からうまく加速した#5 小出はトップの#36 小林選手に迫り、何度か並びかかった後、90度コーナーへの進入でスリップストリームから抜け出し#36 小林選手のインに飛び込んでオーバーテイク、トップに立ちました。また#7 三井も6番手から#16 大滝選手を第1コーナーでかわして5番手へ進出しました。



小出はトップに立ったものの後方から#36 小林選手の激しい攻勢にさらされることになりました。この格闘の間に後方から3番手の#35 荒川選手が間隔を縮め、3台が首位をめぐる接近戦を始めました。この攻防の中、6周目の3コーナーで#36 小林選手が#5 小出に並びかかりましたが、わずかにオーバーランして遅れ、2番手に#35 荒川選手、3番手に#77 宮下選手が繰り上がり、4番手に後退した#36 小林選手には#7 三井が続きました。

#7 三井はヘアピンで#36 小林選手のインに飛び込もうとしましたが押さえ込まれ、順位を入れ替えるには至りませんでした。

この周、3~4コーナーでアクシデントが発生、車両の回収のためにセーフティーカーが再び介入し隊列走行に入りました。この隊列走行は8周終了時まで続き、レースは9周目からリスタートしました。この時点で既に最長30分と定められたレースの残り時間は5分を切っていました。

リスタートが切られると、2番手の#35 荒川選手がトップの#7 小出に迫りましたが、#7 小出はファステストラップを記録して#35 荒川選手を突き放しました。また5番手の#7 三井は10周目の90度コーナーでアウトから#36 小林選手に並びかかり、オーバーテイクして4番手に進出しました。

レースは13週の予定でしたが、11周目に入った段階でレースの最長時間である30分を超過したため、11周目終了時点でチェッカーフラッグが振られることになり、#35 荒川選手からの攻勢を凌いだ#5 小出がトップのままレースを走り切りチェッカーフラッグを受けました。この結果、シリーズチャンピオンは#5 小出に決定しました。また、タイトル hopesを残していた#7 三井は最後まで追い上げ4位に入賞しました。#6 西村は22番手スタートからオーバーテイクを展開し、10位でフィニッシュしました。



今季9勝目を記録した#5小出はシリーズポイント279点に伸ばし、ドライバー部門でシリーズチャンピオンに輝きました。#7三井は246点でシリーズ2位、#6西村は60点でシリーズ8位となりました。またHFDPは336点で2番手のTGR-DCIに111点の差をつけ、チーム部門でシリーズチャンピオンになりました。

【FIA-F4選手権シリーズ第14戦・レース結果】

#5小出 峻 決勝1位 (30分35秒978 ベストタイム 1分58秒407=ファステストラップ)
#7三井 優介 決勝4位 (30分39秒094 ベストタイム 1分58秒881)
#6西村 和真 決勝10位 (30分44秒395 ベストタイム 1分59秒347)

■2022FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング (2022シーズン終了時点)

1位 #5小出 峻 279点
2位 #7三井 優介 246点
8位 #6西村 和真 60点
(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

■2022FIA-F4選手権シリーズポイントチームランキング (2022シーズン終了時点)

1位 HFDP 336点
(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING 小出峻



今週は最終戦ということで、重要な1戦になるとは思っていたんですが、走り出してから決して調子が良いというわけではない感触でした。トヨタ勢に比べるとペースが少し足りないという感じで始まり、金曜日は余り時間がない中でできることはしっかりやって、予



選に挑みました。その結果A組の中ではトップは獲れました。ただB組に対しては、ちょっとタイム差が開いてしまってスターティンググリッドは分が悪かったです。土曜日のレースではスタートで順位をキープして、その後もプッシュはしたんですけど、トップの小林選手にはなかなか追いつかなくて少しずつ離されていき、後半になると自分のペースも落ちてしまい、後ろからの攻勢に防戦一方になってしまいました。木曜、金曜からの流れが続いて、厳しいレースになりました。その中でも、しっかりとポイントは獲得できたんで、そこは自分としては評価できるなとは思いました。でもチャンピオンは優勝して獲りたかったし三井選手とのポイント差も開いたので、第14戦では消極的にならず、絶対に攻め続けようと思っていました。スタートでは前に出られませんでした。SCスタートではチャンスを逃すことなくしっかり仕掛けられました。この3年間の集大成にふさわしいレースになりました。

●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING 西村和真



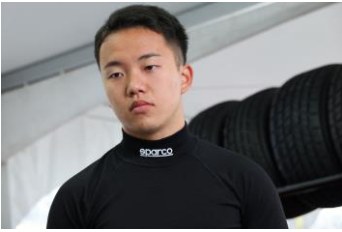
今週は木曜の走り出しから調子が良なくて、SUGOの時も似たような状況ありましたが、それ以下の状態で、どこが良くてどこが悪いのかがわからないという状況になってしまい、セッティングも運転も、いろいろ試したんですが良い感触がつかめないまま予選を迎えることになってしまいました。予選ではもう少し行けた感触はあったんです

が、赤旗が絡んでしまいクリアラップがうまく取れず、1周はアタックできたんですがセカンドベストは22番になってしまいました。みんな条件は同じなので言い訳ですが、第13戦の決勝は、少しポジションを落としてしまいましたが、周囲がリタイヤとかクラッシュで脱落していったのでなんとかポジションキープはできました。第14戦は結構



荒れた展開になって、ポジションを12上げるのができたので良かったと思います。ただ、基本的に1年通してFIA-F4というクルマを自分のモノにできなかったなと痛感します。振り返ると、開幕戦で小出選手と当たってしまったという事はありましたが、シーズン序盤は割と良いところを走れたのに、シーズンが進むにしたがって自分の中で色々トライはしたものの、モノにできなかったりうまく行かなかったりして、迷いの多い1年になってしまいました。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 三井優介



木曜、金曜と思うようなペースで走れず、自分の走りの修正から始まりました。もてぎの経験はあったんですけど、FIA-F4の走らせ方、もてぎの走り方を改めて修正しました。それでも他のチームとのポテンシャル差は感じましたが、予選ではなんとか前の方へ行けました。でも第13戦ではやはりポテンシャルが今ひとつでポジションキープが限界でした。第14戦では、セッティングの方向が見えたので変えてみた

らそれが当たって良くなったんですが、スタートでミスって2台に抜かれてしまい、SCがいっぱい出て思うようにバトルする時間が作れませんでした。でも、今まではポジションを落としたらそのままになることが多かったんですが、少しでも巻き返すことができたのは成長したところかなと思います。年間ランキング2位に終わりましたが、開幕する時にはここまで来られるとは思っていなかったのも、自分を褒めたいですし、チームにも感謝しています。

